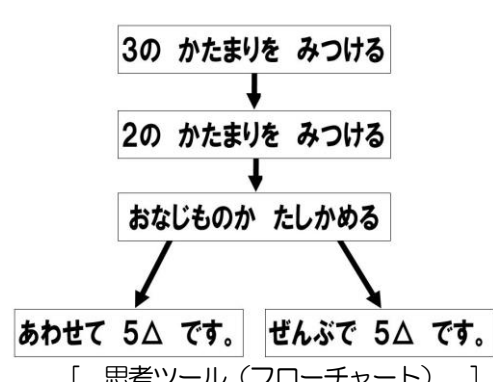

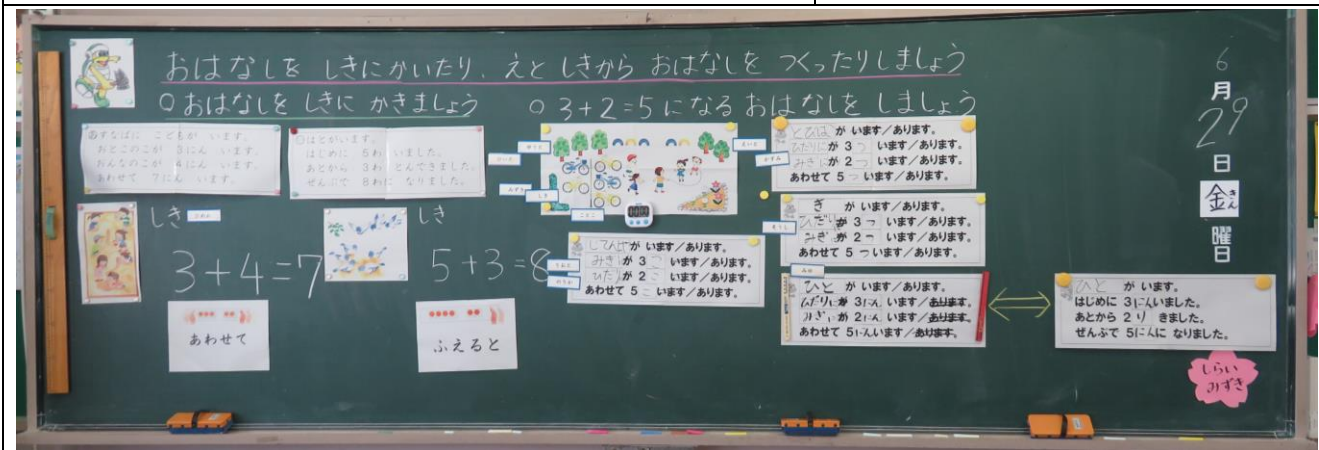


1 年 算数	ピーチ姫を助けろ!～たしざん(1)～	1年②
目 標	たし算の具体的な場面とたし算の式を理解することができる。 (知識・理解)	
使用した ICT 機器類・教具等	大型テレビ、OHC、HDMI ケーブル、タブレット端末、HDMI—miniHDMI ケーブル	
思考ツール・プログラミング	フローチャート	
◆プログラミング的思考とのつながり ・フローチャートを用いることで、考え方を可視化し、子どもたちが手順にしたがって問題づくりに取り組む。		
◆授業の実際		
1 文章と図を見て、お話を式に表す。 ○既習事項の確認のため、「あわせて」「ぜんぶで」に注目して、多くの子がすぐにたし算の立式をすることができていた。 ○過去の問題(合併か増加)のどちらと似ているかを聞いたときも、擬態語で表現した合言葉とキャラクターを使って単元を進めていたため、迷いなく分類ができていた。		
2 絵を見て、 $3+2=5$ の式になるお話を作る。 ○タブレット端末の画面に問題の絵を映し、自分がつくった問題のお話を言いながら録画をした。 ○フローチャートと問題文の型を見ながら意欲的に取り組むことができていたため、どのようにして問題を作ってよいかかわからない子がいなかった。たくさん問題を作ることができたため、とても楽しそうに活動していた。 ○発表の場面では、自分の作った問題が大型テレビから流れることがうれしく、とても意欲的に発言をする姿が見られた。 ○同じ問題を何度も聞くことができるため、自分の作った問題と同じところや違うところをきちんと確認することができた。		
		 <p>[思考ツール (フローチャート)]</p>
		 <p>[タブレット端末を使い、自作の問題を録画]</p>
		
◆実践を通して ・自作の問題をタブレット端末で録画することにより、子どもたちは問題を文字に起こす必要がなく、短い時間で多くの問題を作ることができた。 ・フローチャートを用いたことで、着目するポイントが可視化され、とその順番がわかりやすかったため、子どもたちが手順にしたがって迷わずに問題作成をすることができた。		